

準双曲割引下での財政・金融政策の分析

前田 大輝 *

概要

本論文では、Krusell et al. (2002) の準双曲割引 (Quasi-geometric Discounting) のモデルに貨幣の導入と労働供給の内生化の 2 点を拡張し、財政政策と金融政策について論じる。主な結果としては 2 点あり、1 つ目は貨幣と資本を同時に家計が蓄積する場合にも陽的な政策関数を得られることを示したことである。2 つ目は将来の政策を約束できない政府は、財政政策と金融政策を組み合わせた場合、現在バイアスが存在すると名目利子率を正とする誘因、つまり、フリードマンルールを逸脱する誘因を持つことを示したことである。

キーワード：準双曲割引、フリードマンルール

* 大阪大学大学院経済学研究科 〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-7 メールアドレス:sge019md@student.econ.osaka-u.ac.jp